

バウムテストによる子どもの印象評定

Evaluating the impression data of the child's Baumtest

岩 田 泉

Izumi Iwata

Abstract

It is important how childcare givers read a child's expression to stimulate the child's development.

In this study, we focused on the child's Baumtest (tree test), especially tree picture impression data. We examined this data for the predictability of child's behavior next to that of caretakers' impression of the tree pictures drawn by subject children. We conducted child's Baumtest in May, 2005. Subjects of this test were 70 male and female children of 5-6 years old, belonging to senior classes of a kindergarten.

As a result, we pointed out that the childcare giver's impression of the tree pictures compared to that of the childcare giver's direct impressions of each child who drew tree pictures tended to be corresponding. We also found that that childcare giver's impression of the tree pictures corresponded to third parties' impression of the same picture.

We also found that third parties' impressions of the tree test corresponded predictably with that of actual child behavior. Some specific impressions of tree pictures, such as "dynamic," "free," "positive," "quickness," "carefulness," and "sensitive," could indicate a child-drawer's character of "active" and "liveliness." Some other impression such as "leisurely," "sturdy," "scrupulous" and "careful" could imply a drawer's character of "scrupulous."

Since, "active" and "leisurely" impressions of tree pictures also indicate a drawer's character such as "energetic" or "socially active" and "extrovert" nature as well as mental healthiness, it appears that tree pictures drawn by the Baumtest can give us vivid impression data of a drawer's character and behavioral trend.

1. 問題と目的

保育場面において、保育者が子どもの遊びにおける表現をどう捉えるかは、子どもの発達を促す上

で重要な課題である。津守（1987）は、子どもが没頭して遊ぶ中に、こころの奥深くにある願い、すなわち過去から引きずっている自身の問題や発達しつつある自らの新たな可能性が表現され、それらを満たす活動ができたとき子どもは満足を感じ、過去の問題が癒され、未来に向かって自信をもって生きようになるという。その意味で、保育という行為は、それら子どもの可能性を満たす活動であり、保育者の子ども理解の仕方を具体的に示すものであるとしている。

すなわち、子どもの表現は、それに関わる大人である保育者によって理解され受容されることによって、子どもは自己実現し自己を形成していくのであり、こうした理解のあり方が子どもの自己実現や自己形成に欠くことのできない条件となると考えられる。また、原岡（1993）は子どもを理解するとはどのようなことかを具体的に考察し、子どもを多面的に説明できること、子どもの重要な要因に気づくこと、その行動の底にある要因を把握できること、因果関係的な思考を行うこと、子どもの行動の妥当な予測ができることなどの5つの条件をあげている。

特に、教師には子どもの行動の要因（理由）を洞察できる能力が求められ、行動の要因を把握する能力、洞察力が必要なことを強調している。この洞察力は学習することが可能な社会的スキルと考えられ、このスキルの獲得には、感受性と共感性、他者の態度や感情への敏感さと注意力が関連している。また、洞察力のある教師は、直感的に「子どもがなぜそのような行動をするのか」に注意を向け、子どもの感情の受容に敏感だが、洞察力のない教師は、子どもの行動を自分に対する反応から評価し、合理的ではない反発や反抗を受けがちになると指摘している。

こうした洞察力のあり様は、幼児の保育場面にも共通して言うことができ、保育者にも同様のことが起こり得ると考えられる。保育者はまず、感受性や共感性、感情への敏感さに基づく直感や感情により子どもを感じ、そこから子どもの行動の要因を明らかにしていき、因果関係から行動の要因を洞察できることが求められる。子どもを理解する上で、子どもから何を感じ、それをどう理解し、どう洞察するかは、子ども理解の本質的な課題であり、保育や教育の経験の有無に関わらず、子どもに関わる者に求められる重要な資質であると考えられる。本研究では、こうした子どもの表現を捉え、子どもを感じ理解するための手がかりを得ることを目的とする。そのため、バウムテストという実的な樹を描く投影法テストから、感じ理解する契機を得ることが実質的に可能かどうかを検討する。

ここで用いるバウムテストの結果の解釈では、まず全体的特徴をつかみ、次にいくつかの視点から目立つ特徴を読み枠組みをつくり、さらに小さい要素を取り上げて肉付けするという手続きを経ることになる。細部の要素を集めて全体を構成するのではなく、まず全体的な特徴を把握することが重要となるのである。また、その際の全体的特徴のつかみ方は、描かれたバウムはその時その場で何かを伝えている完成品とみなす、その上で未完成、不完全、逸脱などの印象がある場合その「印象」はなぜ得られるのか何を意味するのかを考え、それを参考に心理的特徴を読むというものである。また、ここでいう全体的特徴とは、高橋（1993）によれば、描かれた木を見て根拠を明白にはいえないが、描いた人の強い敵意とか何らかの障害ではないかと感じられるアプローチであり、分析による解釈的なアプローチと異なり、むしろ、本質的な解釈的アプローチの基礎をなすと考えられる。この「感じられるアプローチ」は、直感や感情により子どもを感じ、そこから子どもの行動の要因を明らかにしていき、因果関係から行動の要因を洞察できる子ども理解と共通するものと考えられる。

したがって、本研究ではこの描かれた樹木画から「感じられる印象」を重視し、バウムテストの印象評定から子どもの行動も含めた全体的な「感じられる印象」を得ることが可能かどうかの検討を試みる。具体的には、バウムテストの印象評定と子どもの行動を含む全体的印象はどう関連するのか。それは日常的に子どもと関わる、例えばクラス担任による印象評定の場合かどうか。さらに、クラス担任による子どもの印象評定と第三者によるバウムテストの印象評定はどう関連しているかを検討する。

2. 方法

バウムテストはA県内の幼稚園児年長クラス（5～6歳児男女）70名を対象に、2005年5月に幼稚園の教室にて実施した。実際の樹と実を写し描くのではなく、「頭の中にある樹と実を描くこと」を説明し、自由に「実のなる木を描いてみよう」と教示した。

深田（1959）によるとこの時期の子どもは、図式画期にあり、見たとおりというより考えたように描こうとする発達段階にある。また、三上ら（1981）は、この時期の子どもは、男の子は乗り物を、女の子は草花、蝶、動物を好んで描く傾向が見られるとしており、したがって樹木以外の付加物を描くことも自由とし、筆記具は鉛筆ではなくクレヨンを用いた。樹木を描いていない、教示が理解できていないものは除くこととした。

また、一谷ら（1975）によるS-D法を参考に12の形容詞対からなるチェックリストを作成し、年長クラス担当の教諭3名にバウムテストの印象評定、および、子どもの印象評定を依頼した。さらに、子どものバウムテスト結果とクラス担任によるチェックリスト結果を回収し3ヵ月後の8月に同じチェックリストを用いて、大学生3名に子どものバウムテストについての印象評定を依頼した。

チェックリストの形容詞対は、①さびしい-にぎやかな*②活動的な-不活発な③動的な-静的な④自由な-束縛された⑤積極的な-消極的な*⑥おどおどした-のびのびした*⑦たくましい-弱々しい⑧几帳面な-ずぼらな⑨慎重な-軽率な⑩すばやい-おそい⑪注意深い-不注意な⑫鈍感な-敏感な*の各項目（*は反転項目）からなり、一谷らによると大胆さ（活発さ）因子（項目番号①、②）、濃淡（明るさ）因子（項目番号③、④、⑤）、描写タッチ（几帳面さ）因子（項目番号⑥、⑦、⑧、⑨）、筆跡の勢い（敏感さ）因子（項目番号⑩、⑪、⑫）を含む。採点は、各項目について、「非常に」、「やや」、「どちらともいえない」、「やや」、「非常に」の5件法とし、それぞれ1～5点を得点化した。

3. 結果

子どものバウムテストの有効回答は不備のものを除いて65であった。保育者によるバウムテストの印象評定は35.0から75.0点まで分布し、平均52.8点であり標準偏差は12.64であった。保育者による子どもの印象評定の結果は、37.5から65.0点まで分布し、平均47.4点であり標準偏差は5.64であった。平均値の差からクラス担当の保育者は、バウムテストの印象評定より、実際の子どもの印象を肯定的に評定する傾向にあることが示された。

さらに、クラス担当の保育者による子どもの印象評定、バウムテストの印象評定、第三者によるバウムテストの印象評定それぞれの関連を検討するために、Pearsonの相関係数を算出して相関分析を

行った。

まず、クラス担当保育者によるバウムテストの印象評定と子どもの印象評定とは正の相関 ($r=.576, P<.01$) がみられ、特に、濃淡 (明るさ) 因子 ($r=.327$)、描写タッチ (几帳面さ) 因子 ($r=.519$)、筆跡の勢い (敏感さ) 因子 ($r=.257$) に高い正の相関 ($P<.01$) がみられた。また、子どもの印象評定の几帳面さ因子とバウムテストの濃淡因子 ($r=.349, P<.01$)、筆跡の勢い因子 ($r=.319, P<.05$) に正の相関がみられた。また、大胆さ因子には有意な相関がみられず、子どもの印象評定における几帳面さ因子以外の明るさ、敏感さ因子には、バウムテストのそれぞれの他の因子との有意な相関は見出せなかった (Table1)。

Table1 保育者による子どもの印象評定とバウムテストの印象評定の関係

	バウム印象評定	大胆さ	濃淡	描写タッチ	筆跡勢い
子どもの印象評定	.576**	.392**	.540**	.508**	.349**
①②項目	.213*	.188	.223	.151	.113
③④⑤項目	.207*	.037	.327**	.188	.174
⑥⑦⑧⑨項目	.396**	.132	.349**	.519**	.319*
⑩⑪⑫項目	.275**	.155	.272*	.111	.257**

** $P<.01$ * $P<.05$

次に保育者によるバウムテストの印象評定と第三者によるバウムテストの印象評定には正の相関 ($r=.693, P<.01$) があり、それぞれ大胆さ因子 ($r=.720$)、濃淡因子 ($r=.559$)、描写タッチ因子 ($r=.684$)、筆跡勢い因子 ($r=.434$) とともに高い正の相関 ($P<.01$) がみられた。大胆さと描写タッチには有意な相関は見出せなかった (Table2)。

Table2 保育者によるバウムテストの印象評定と第三者によるバウムテスト印象評定の関係

	第三者印象評定	大胆さ	濃淡	描写タッチ	筆跡勢い
保育者の印象評定	.693**	.393**	.599**	.364**	.454**
大胆さ	.685**	.720**	.637**	-.013	.426**
濃淡	.630**	.278*	.559**	.371**	.351**
描写タッチ	.434**	.072	.295**	.684**	.316**
筆跡勢い	.456**	.039	.361**	.412**	.434**

** $P<.01$ * $P<.05$

さらに、クラス担当の保育者による子どもの印象評定と第三者によるバウムテストの印象評定でも正の相関 ($r=.461, P<.01$) があり、保育者による活発さ因子と第三者によるバウムテストの印象評定

の濃淡因子 ($r=.251$)、筆跡勢い因子 ($r=.242$) に正の相関 ($P<.05$) がみられた。また、保育者による几帳面さ因子と第三者によるバウムテストの印象評定の描写タッチ因子 ($r=.207$) に正の相関 ($P<.05$) がみられた (Table3)。

Table3 保育者による子どもの印象評定と第三者によるバウムテスト印象評定の関係

	第三者バウム印象評定	大胆さ	濃淡	描写タッチ	筆跡勢い
子どもの印象評定	.461**	.197	.381**	.270*	.295**
①②項目	.346**	.135	.251*	.186	.242*
③④⑤項目	.187	.027	.123	.195	.141
⑥⑦⑧⑨項目	.180	.040	.098	.207*	.037
⑩⑪⑫項目	.107	.030	.113	.021	.163

** $P<.01$ * $P<.05$

4. 考察

結果から、クラス担当の保育者による子どもの行動傾向を含む全体的な印象とバウムテストによる描画の印象はかなり一致しており、バウムテストによる描画の印象は、実際のクラス担当の保育者も第三者もおおむね共通した印象をもつ傾向にあるといえる。また、第三者による描画の印象評定から子どもの印象を予測することが可能と考えられ、特に、バウムテストによる描画の動的な、自由な、積極的な感じ、および、すばやい、注意深い、敏感な感じから子どもの活発さ (にぎやかな、活動的な) を予測でき、さらに、描画におけるのびのびした、たくましい、几帳面な、慎重な感じから子どもの几帳面さを予測することがある程度可能と考えられる。

高橋 (1993) は、キャンプ療法の効果をバウムテストの全体的印象から捉えることを試み、印象評定の観点として、エネルギー感、形態の統制、成熟度、濃淡の4因子を抽出し、その中で、エネルギー感が効果の判別に最も貢献することを見出している。このエネルギー感尺度では、「動的な」、「のびのびした」の2項目が本研究で用いたチェックリスト項目と一致しており、バウムテストの描画から得られる全体的な印象として、静的な、および動的な感じ、おどおどした (萎縮した)、およびのびのびした感じは、子どもの活動性やたくましさ、慎重さなどを予測する重要な印象と考えられる。

このエネルギー感の意味については、青木 (1988) が指摘する「バウムテストに現われるエネルギーとは人間をある行動に駆り立てる源であり、生まれながらに備わっているもの」であると捉えられ、高橋の研究においても「樹木画が健常児型に変化し判別するのに最も有効な尺度である」と指摘していることから、心理的な健康さを表す指標となると解するのが妥当と考えられる。

また、石谷 (1998) は、バウムテストによる描画の視覚的印象について、数量的に抽出した因子のうち質感や流動感因子がエネルギーの高低に関連し、特に、本研究のチェックリストの「動的な」「のびのびした」項目を含む流動感因子は、快活で活動力を持ち対人関係における積極性と社交性を表すとされ、YG 性格検査の衝動性因子 (活動性、のんきさ)、および、主導性因子 (支配性、社会的外

向) と正の相関があることを指摘している。したがって、エネルギー感は集団や対人関係における活発さ意味し、性格(行動)傾向としての外向性の高低を示すものと考えられる。

以上から、バウムテストの印象評定と子どもの行動を含む全体的印象は、かなり一致しており、特に、描画の濃淡(明るさ)、描写のタッチ(のびのびした)から、子どもの活動性やたくましさ、慎重さなどの性格(行動)傾向を予測することが可能と考えられる。また、それは日常的に子どもと関わるクラス担当の保育者による樹木画の印象評定からも、第三者によるバウムテストによる樹木画の印象評定からも予測が可能であり、子どもの心理的な健康度や社会的な活動性、外向性という意味において、バウムテストにより描かれた樹木画から子どもの行動も含めた全体的な「感じられる印象」を得ることが可能と考えられる。

本研究から得られた印象について、今後は性格検査等を加えた個人的傾向の検討を行い、「感じられる印象」の内容をより明確化して、実際の保育場面で活用できる、実践に耐えうるものにしていきたいと考える。

[引用文献]

- 青木健次 1988 バウムテストーバウム画を表現心理学から読む 臨床精神医学, 17(6), 979-987
- 深田尚彦 1959 学童の樹木描画の発達的研究 心理学研究, 30, 107
- 原岡一馬 1993 教育心理学ー発達に応じた指導と学習の心理 放送大学教育振興会
- 一谷彊・津田浩一・林勝造 1975 S-D法によるバウムテストの因子的検討ー診断のための探索的試み 京都教育大学紀要, No.47
- 石谷真一 1998 バウムテストにおける検査者の視覚的印象の活用についてー学生相談室入室学生の心的特徴の把握に向けてー学生相談学研究, 19(1), 1-12
- 三上直子・岩崎和江 1981 統合型HTP法における幼稚園児から大学生までの描画発達 臨床精神医学, 10, 1331-1339
- 高橋知音 1993 キャンプ療法による登校拒否児の樹木画の変化ーバウムテストの全体的印象による評価 カウンセリング研究 Vol 26(1), 19-28
- 津守真 1987 子どもの世界をどうみるかー行為とその意味 日本放送協会出版協会